

# 福祉みやぎ

vol.606  
2019

11月号

## 里山のファンタジー

■ 事業所名：社会福祉法人ありのまま舎 太白ありのまま舎  
■ 作 者：菅野 希夫 (かんの まれお) 様

里山ののどかな風景と子供たちの楽しそうな笑いと遊び  
を空想して描いてみました。



## CONTENTS (主な内容)

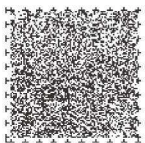
### P2 特集

かるたで防ぐ! 特殊詐欺被害!

### P4 Heart & Works

【仲間と笑って認知症予防】健康マーじゃん教室

- P6 ジョブカードをご存知ですか?
- P7 「福祉の職場親子体験ツアー」を開催しました!
- P8 ちいきをつなぐ
- P9 市町村社協レポート
- P10 復興宮城のいま
- P11 みやぎいきいきシニアだより  
こんなことやっています!
- P12 県社協掲示板



# かるたで防ぐ！

## 特殊詐欺被害！

近年、特殊詐欺の被害が後を絶ちません。

「自分は騙されない。」と思っている人が多いと思いますが、被害に遭った方の多くがそのように思っていました。

特殊詐欺の手口を正しく学び、被害に遭わないようにしましょう。今回は、特殊詐欺被害の現状や特徴、対処方法等、そして、県警察で製作した特殊詐欺予防かるた「ゲキタイかるた」についても御紹介させていただきます。

### 特殊詐欺被害の現状

本県における特殊詐欺の被害は、令和元年九月末で、被害件数172件、被害金額2億2,566万円と、前年の同じ時期と比べると被害件数、被害金額ともに減少していますが、高水準で推移しており極めて厳しい現状に

あります。「特殊詐欺」のうち、「オレオレ詐欺」につきましては、前年同期比で被害件数・金額ともに増加しております。「オレオレ詐欺」の被害者は、9割以上が65歳以上の高齢者です。

### ● 最近の手口

警察官、銀行員、家電量販店店員などを装った者から電話があり、「口座が悪用されています」「キャッシュカードの変更手続きをします」「これから家に行くので、キャッシュカードを準備していてください。」などと言われます。この電話の中で、キャッシュカードの暗証番号を聞き出されま

す。そして、自宅に警察官等を装った者が来て、キャッシュカードをだまし取られるのですが、犯人は、コンビニ等のATMからすぐに現金を引き出します。また、自宅に来た警察官等を装った者が、キャッシュカードを封筒に入

### ● 被害防止のポイント

りさせ、印鑑を持ってくるよう指示も増加しています。

冷静な状態で考えると、実に不審で怪しい電話だと気付くことができます。しかし、急に警察官等から電話があり、「口座が悪用されている。」等と言われると慌ててしまい、冷静な判断ができなくなってしまう。そこで、まず

- ① 他人にキャッシュカードは渡さない！
- ② 暗証番号教えない！

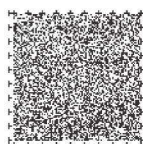
ということ。このこと。このこと。

警察官や銀行員がキャッシュカードを預かることはありませんし、暗証番号を聞き出すことはありません。①②をしっ

かり覚えておきましょう。更に、犯人と実際に話をしない環境を整えることも大切です。最近販売している固定電話機には、「警告機能」や「録音機能」が付いて

おります。電話がかかってくると、電話が鳴る前に、相手に、「この電話は詐欺防止のため録音します。」などという警告を

伝えるのです。犯人は、声を録音されることを嫌い、電話を切るケースが多いのです。このような固定電話機を活用することで、被害防止に繋がるのです。



### 「家族の絆」で被害を撃退！

犯人は、だましのプロです。組織化されており、だましのマニュアルまで存在します。そんな相手に対抗するには、家族の力が不可欠です。特殊詐欺の被害に遭わないために、日頃から家族でコミュニケーションを図り、特殊詐欺への防犯力を高めましょう。家族の合言葉を決めておくことも重要です。「特殊詐欺の被害は、家族で守る」という意識を持ち、両親、祖父母を特殊詐欺の被害から守りましょう。家族で〈3つの約束〉をしておくことも効果的です。

### 〈家族の3つの約束〉

- ① 電話で「お金」はせがまない！
- ② 警察や市役所等から「お金」に関する電話が来てもすぐに信じない！
- ③ 「お金」の要求があれば家族や警察に相談する！

## 「ゲキタイかるた」について

この度、県警察では、特殊詐欺予防かるた

ゲキタイかるた

特殊サギには、負けねえど〜

を制作しました。高齢者が、かるた遊びを通じて、楽しみながら特殊詐欺の手口を学ぶことが目的です。



### ● 考えるかるた

「ゲキタイかるた」は、読み札の頭文字から取り札を探す、一般的なかるたとは異なります。

読み札が特殊詐欺の手口

取り札が対処方法

となっており、特殊詐欺の手口（読み札）を聞き、その対処方法をしつかりと考え、取り札を選ぶ仕様となっているのです。

警察です 市役所です  
キャッシュカード預かります  
暗証番号教えて下さい



キャッシュカード  
渡さない  
暗証番号教えない



### 誰でも講師役になれる

「ゲキタイかるた」の読み札裏面には、「手口の詳細」や「被害防止のポイント」が記載されているため、読み札の裏面を読み上げるだけで、手口や被害防止のポイントを伝えることができます。

### ● 間違い札

警察です市役所です  
キャッシュカード預かります  
暗証番号教えて下さい

どんな手口なんだろう？

1.これは、「オレオレ詐欺」の手口です。  
2.役職員や銀行員、警察など名刺から電話がかかってきます。  
3.「暗証番号を教えない」といって、キャッシュカードの暗証番号を教える（盗み）など言われます。  
※そのキャッシュカードは盗んで使えないので、カードを預かる。などと言われます。

自宅に銀行員や銀行員の名刺がキャッシュカードを受け取りに来ます！

一緒に覚えよう！ ～被害防止のポイント～

1.役職員や銀行員などがキャッシュカードを預かりに行くことはありません。  
2.他人にキャッシュカードの暗証番号教えない、渡さない！！

「ゲキタイかるた」の取り札には、間違い札が4種類用意されています。よく考えて読み札を選ばないと、間違い札を選んでしまう仕組みになっています。これは、遊びの中で、高齢者に「考える」ことを癖付けてほしいとの狙いから用意しました。



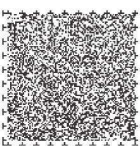
### ● 普及活用の御協力依頼

「ゲキタイかるた」は、イラストを総合学園ヒューマンアカデミー仙台校でマンガやイラストを学ぶ生徒様に担当していただきました。「親しみやすい優しい絵にしてほしい。」と要望したところ、見事に答えてくださいました。また、県警察の趣旨に御賛同いただいたJ A 共済連宮城様に御協力をいただき、「ゲキタイかるた」の寄贈をいただきました。そして、制作した「ゲキタイかるた」を、宮城県社会福祉協議会様をはじめとする、高齢者の関係機関・団体の皆

様へ贈呈させていただいたのです。しかしながら、制作した部数に限りがあるため、県警察のホームページに、「ゲキタイかるた」の画像データを掲示させていただきました。画像データを印刷し、厚紙に貼ったり、ラミネート加工する等すれば、誰でも「ゲキタイかるた」を制作することができますので、ご活用ください。「ゲキタイかるた」は、様々な方々の御厚意と御協力により制作にいたしました。全ては、県民の皆様を、特殊詐欺の脅威から守りたい、被害者を一人でも減らしたいという気持ちから生まれたものです。この「ゲキタイかるた」を是非ともご活用いただければ幸いです。また、「ゲキタイかるた」に関する質問がありましたら、気軽にご連絡ください。

### 【お問い合わせ先】

宮城県警察本部生活安全部  
生活安全企画課犯罪抑止対策係  
022-1221-7171



# ハート アンド ワークス Heart & Works

## 【仲間と笑って認知症予防】健康マーじゃん教室

### マーじゃんを通じて『健康と生きがいづくり』 ～一般社団法人 日本認知症予防マーじゃん協会～

健康マーじゃんとは【お金を賭けない】【タバコを吸わない】を大原則に、ゲームとしての楽しみだけではなく、頭の体操や、人と人をつなぐコミュニケーションツールとして人生をいきいきと楽しむ様々な効果があります。

今号は認知症予防に健康マーじゃんを役立て、1人でも多くの方の『健康と生きがいづくり』の役に立ちたいと協会を設立し、教室等を開催し「健康マーじゃん」の普及・啓蒙活動に取り組む一般社団法人日本認知症予防マーじゃん協会の宮野大城代表理事にお話を伺いました。

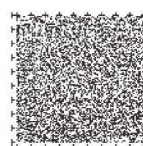
#### 健康マーじゃんの魅力

健康マーじゃんは「お金を賭けない」「タバコを吸わない」を前提に健康と生きがいを目的とした健全なマーじゃんです。また、頭と指先が動くかぎり、無理なく仲間と生涯を通じて楽しめるため70代で覚え始める人も年々増えており、最高齢の会員の方は90歳を超えています。今では全国的に健康マーじゃんを楽しむ方が増え、2007年からは「全国健康福祉祭（通称…ねんりんピック）」の正式種目となり、現在では多くの市町村などが健康マーじゃんの活動に取り組んでいます。

#### きっかけは母の笑顔

教室を始めたきっかけは、「60代で大病を患った母親が、マーじゃんを通じて多くの友達と知り合い、元気になっていく姿を見たこと」と宮野代表は語ります。すでに地域では健康マーじゃんを行う教室・サロンはあったものの、どうして

も参加者に上達を求めたり、勝ち負けを優先してしまう部分があったため、健康づくり、認知症予防、介護予防を目的とした健康マーじゃん教室を開催することとなりました。



#### 誰にでもわかりやすく

2014年、会員7名からスタートした教室は、日々「今日は参加者が来てくれるか」との不安が付きまとっていたそうです。マーじゃんにはどうしても「タバコ」「暗い」「怖い」といったマイナスイメージがついていたため、『健康のために』という目的を掲げてても参加者は少なかったといいます。その中で、社会福祉協議会や関係機関のバックアップを得られるようになってから少しずつ参加者が増え、現在では1,300人を超える会員数となっています。

マーじゃん協会では、難しいことを教えることよりも、楽しく継続していけることを目指して、60、70代のマーじゃん初心者の方

が楽しく基本を身に付けられる、をコンセプトにオリジナルテキストを作成しています。見やすい文字の大きさや色など細かなところまで試行錯誤し、長い時間を費やし完成させました。

さらに、どうしてもより認知症予防を促進できるかをテーマに、健康や脳トレに効果的なマジジャンの楽しみ方は何かと考え独自のカリキュラムを構築しました。今後は東北大学の専門家の監修のもと、より認知症予防に効果的なカリキュラムの構築を目指しています。



### 認知症予防への効果

現在、開催している教室では軽度の認知症の方でも参加が可能となっています。軽度の認知症の症状があり、曜日感覚を失くした方が毎週マジジャン教室に通うことにより、生活のリズムを取り戻すことができたケースや、65歳で認知症を発症した方が教室に通い続けることにより、10年間ほとんど症状の進行がみられていないといった事例もあります。

「認知症状の発症を遅らせたり症状悪化の予防にも効果が期待できる」と宮野代表は話します。頭と指先を使い、人と話すことを自然に行う健康マジジャンの愛好家は実年齢より脳年齢が3歳若いという研究結果もでています。さらに宮野代表は「外出をする、仲間と笑って帰って頂く。それが認知症予防につながる。健康マジジャンは一人で行う脳トレと違って仲間が出来る、1人じゃない。マジジャン教室を通してマジジャンをやったことがない人が脳トレや仲間作りができる場を提供していきたい。」と話されます。

### 今後の展望

今後に向けて「今年の秋から、初めて参加した方を対象にアンケート等を行い、参加者の幸福度の変化、認知症予防の効果を数値化していきます。東北大学と連携しながらアンケートを分析し、より認知症予防に効果がある教室を創ることにチャレンジしていきます」と話す宮野代表。

現在のマジジャン教室には、運営をお手伝いするサポーターと呼ばれるボランティアの方々がいまいます。サポーターは教室の卒業生や

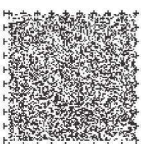


常連の方々を中心です。健康マジジャンを通して認知症予防以外の様々な良い効果が生まれています。『健康と生きがいづくり』を進めることは当事者だけでなく、認知症を支えるその家族、さらにはその地域全体を豊かにする大きなきっかけとなっています。そのきっかけづくりの場を今後も大切にしたいと思っています。

(宮城県社協取材)

### お問い合わせ

一般社団法人 日本認知症予防マジジャン協会  
TEL 022-224-8778  
〒980-0811  
仙台市青葉区一番町3-9-13 DATE ONE ビル4階



## 「ジョブ・カード」をご存知ですか？ 自分を理解してイキイキと働く

本県において2025年度末には39,635人の介護人材が必要とされ、今後、約9,000人もの人材を確保しなければならぬ状況が示されています。

そのような中で、採用の強化、職員のモチベーションアップ及び定着促進へ向けジョブ・カードの活用を検討してみたいかがでしょうか。

### 1 ジョブ・カードとは

ジョブ・カードは個人のキャリアアップや、多様な人材の円滑な就職等を促進することを目的とした自分自身で作成できる専用シートです。ここに仕事や個人の体験等過去のことから未来のことへと、順序立てて丁寧に振り返ることによって、現在の自分の軸や強みを自覚できるようにになります。

### 2 採用のミスマッチを防ぐ

ジョブ・カードは従来の応募書類よりも求職者をよく理解できる有効

なツールです。「職務経歴シート」等で過去の経験を、「キャリア・プランシート」で価値観・興味・関心ごと、将来への想いなどを具体的に知ることができ、採用に関わるミスマッチを軽減することができます。

### 3 在職者の定着促進

ジョブ・カードを作成すると、自分のことをあらためて振り返ることになります。自分がなぜ現職で働いているか、今後どうなりたいかという「目標と目的」を自覚することにつながります。新人・中堅・ベテラン層への移行期等、節目ごとの継続的な作成により、「成長記録」にもなります。主体的に「目標と目的」を自覚したり、成長を実感することでモチベーションアップと定着率の向上につながります。

社員のキャリア形成・能力開発を支援  
人と組織を活性化するジョブ・カード



### 4 作成のサポートも様々

一人では書けない項目もあるかもしれませんが、そんな時は、専門家による個別面談（キャリアコンサルティング）を受けることができます。個別面談では、これまでの経験の振り返りや、そこから見えてくる将来の目標などを話し合います。キャリアコンサルタント、いわゆる第三者との関わりの中で、自分や仕事に対する考え方の整理ができて、自分だけでは気づくことのなかった大事なしたい価値観や強み・興味の発見につながります。

実態に即して多様なサポート方法があるので、詳しくは下記連絡先へお問い合わせください。

（宮城県社協取材）



Job + Card  
ジョブ・カード制度 [総合サイト](https://jobcard-center.jp/)  
<https://jobcard-center.jp/>

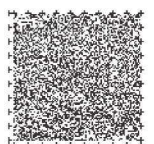
本事業は、株式会社パソナが厚生労働省より、受託・運営しています。

#### 活用事例の一例

- 新卒の保育士が保護者との関わり等にプレッシャーを強く感じていた職員のケース。  
⇒要望と現実のギャップ等をジョブ・カードに記入。キャリアコンサルティングにて弱みを克服し、強みを伸ばしていける内容を本人と確認していき、具体的な目標をもって業務を進めるように変化した。業務の進め方や対処方法等も考えられるようになった。
- ワークを交えて仕事や自分についての振り返りができるセミナーとキャリアコンサルティングを実施。参加者アンケートより
  - ・自分の生き方、仕事の進め方について深く考えることができた。 ・振り返ることで、自分が今抱えている課題が見えてきた。
  - ・忘れていた自分の内面を思い出すことができた。 ・楽しく振り返ることができた。自分のことを話すことで目標設定がしやすくなった。
  - ・仕事のみではなく、プライベートも加味した見直しが見えた。

#### 活用方法ほかお問い合わせ先

東北広域ジョブ・カードセンター（株式会社パソナ内） ☎980-8485 仙台市青葉区中央1-2-3 仙台マークワン18F  
TEL：022-212-8335 FAX：022-267-4223 メール：jobcard\_miyagi@psona.co.jp



# 「福祉の職場親子体験ツアー」を開催しました!

福祉の仕事を目指す学生は、年々少なくなっており、宮城県における介護の福祉人材の確保は、需要と供給のギャップが、令和7年時に4,755人になる可能性が予測され大きな課題となっています。

宮城県では、平成26年度より「宮城県介護人材確保協議会」を設立し、業界全体で福祉人材確保を協議していますが、福祉人材センターでは、「福祉の仕事」については、3Kというイメージにとらわれているのではないかと、子どもが、進路を選ぶ際には、実際の福祉の現場の説明は正しくできているのか?子どもたちのやりたい仕事になっているのか?といういろいろと検討を積みました。

そこで、たくさんさんの説明よりも、身近にある福祉の仕事や社会福祉施設・団体を「親子」で見学したり福祉事業を体験することにより福祉分野に対する理解、関心を高めることを目的とし事業を開催したものです。対象者は、小学生とその親としており、今回で3年目となります。



今回は、松島町において、障がい者施設と、高齢者施設の両方を見学し、福祉の話聞き、福祉補装具やキャップハンディ体験・障害者がおこなっている受託作業体験などを実施し、塩釜市、松島町、利府町、石巻市の親子8組16名の参加がありました。

高齢者施設「特別養護老人ホーム 松島長松苑」では、高齢者の福祉に関して、わかりやすく現状をお話いただき、キャップハンディとして視覚障がい(白内障・緑内障)や、車いすの運転、補装具の取り付けやリフトバスの乗降などを行いました。施設のきれいに感心したり、お年寄りの笑顔にも接することができたようです。



「多機能型事業所 松の実」では、障害者が働くことの大事さ、働く場所、仕事の内容などを管理者から詳しく聞

き、お昼は、いつも施設利用者が食べている食事と同じものを試食しました。その後、「松の実」の名物の団子やパンの購入タイムがあり、最後に、利用者の受託作業である段ボールの箱を折る作業を体験しました。



子どもたちの声として、「お昼御飯が大変おいしかった。」「車いすに乗れて楽しかった。」「おじいさんおばあさんの笑顔がよかった。」等、福祉の仕事に関しては、「将来、考えたい」という子が3名いてくれました。「僕は野球選手になるので」という子もいましたが、それも応援します。

親御さんの声は、「良い体験の場でした。」「高齢者福祉も障がい者福祉も知らないことが多かった」「子供が将来何になりたいかは本人次第ですが、なんにせよ応援していきます。」など、この一日を、十分楽しんでくれたよう

でした。

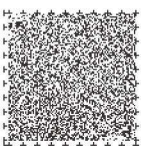
今後5年、10年後も、「福祉の仕事を目指す人材」は、必要不可欠です。どの自治体でも、福祉の現場でも、サービスを担う人がいないことには、充実した福祉サービスは実施することができません。

今のうちから身近な地域での人材の養成は、我々福祉関係者全体が、真剣に考えて対応すべき課題です。「福祉人材センター」は市町村や関係機関と協働で今後も実施していきます。いつでもご相談ください。

(宮城県社協取材)

## お問い合わせ

〒980-0014 仙台市青葉区本町3-7-4  
社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会  
宮城県福祉人材センター  
TEL 022-262-9777 FAX 022-261-9555



## 市民協働から生まれる地域の繋がり

## 「NPO法人FORYOUにここにこの家」の取り組み

だれもが住みやすいまちを目指して活動する「NPO法人FORYOUにここにこの家」(以下「ここにこの家」と記載。)

「は、ボランティアグループからNPO法人へと変化しながら24年間活動を続けています。東日本震災以降は、防災・減災活動にも取り組んでおり、日頃からの備えや地域の繋がりがづくりの大切さを地域住民と共感し合うことで、地域の安全・安心充実に繋がる市民協働の姿を模索しています。



▲NPO法人FORYOUにここにこの家は、仙台市太白区を拠点に地域の繋がりがづくりを後押ししています。

すべての人が、どこかで誰かと繋がれる地域づくり

ここにこの家は、「子供も大人も皆が集まれる場所に」という思いで平成15年に結成され、地域住民一人ひとりが、どこかで誰かと繋がれるような様々な取り組みを行っています。平成24年からは、震災の教訓を未来へ伝えるための活動も行っており、地域内では「日頃からの備え(自助)・「人の繋がりがり(共助)」の必要性が話される等、その活動は少しずつ地域に広がっている様子が伺えます。こうした活動を通し「市民協働による地域防災推進実行委員会(以下「実行委員会」と記載。)」がNPO法人の呼びかけにより発足。ここにこの家は、実行委員会事務局を務めており、地域住民を始めとした、消防、行政、防災士、学校、企業等の様々な立場を集め、共感を得ながら協力者を増やし、協力者数は100名を超えました。現在は、東中田地区社協や、

東中田連合町内会、さまざまな施設などと地域内で繋がり合い「備える」体制が出来上がりつつあります。



▲仙台発そなえゲームは、さまざまな立場を疑似体験し、防災・減災について楽しみながら学ぶことができます。

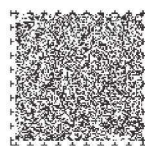
防災・減災を学びながら気づきを促す

「東日本大震災が起こり、日頃の備えと、人の繋がりの大切さを改めて気づかされた。」そう話すのは、ここにこの家理事長・実行委員会代表を務める小岩孝子(こいわたかこ)さん。実行委員会の発足から約2年、仙台市内の協力者を集めた会議を経て「仙台発そな

えゲーム」を開発しました。仙台発そなえゲームは仮想の町を舞台にしたボードゲームで、参加者は引いたカードに応じて、一人暮らし高齢者、子供のいる家庭、妊婦等の地域住民になりきることでさまざまな立場での備えや災害時の動きを疑似体験します。参加者からは、「自宅の備えが足りていないことがわかった」「近くに住むおじいちゃん大丈夫かな」といった声が聞こえてくるといいます。

この取り組みでは、日頃の備えを見直すだけでなく地域に暮らす他者の疑似体験を通じて、相手の立場に立って考える力を養い、共助の精神を育むことにも繋がっています。こうした取り組みから、日頃から地域に暮らす一人一人が、次の大規模災害に備えるため自助・共助を考えることで、安心・安全な「優しいまち」へと繋がっていくのではないのでしょうか。

(宮城県社協取材)







『共に支え、共に助け合い、共に生きる』地域の創造

▲佐藤一繁総務課長(左)、地域福祉課佐々木佳奈さん(中央左)、同 佐藤早苗さん(中央右)、早坂地域福祉課長(右)

17人が死亡、6人が行方不明となった岩手・宮城内陸地震から11年が経ちました。最大震度6を観測した栗原市では、地域の課題を可視化することで、その課題に対応するべく新たな福祉活動を創り出したり、住民一人一人の命と暮らしを守ろうとする取り組みが実践されています。

今号では、地震後に“安心して暮らせる地域づくり”を目指して、行政区ごとに防災まっぷの作成を進めてきた栗原市社会福祉協議会(以下「社協」)の取り組みを紹介します。

つらい経験を糧に

「話し合っておけば良かった、準備しておけば良かったと思うことが山のように浮かんできました」と社協の佐藤一繁 総務課長は当時を振り返ります。当時、社協職員や住民の間で、「つらい経験をつらいままで終わらせてはいけない。災害で、悲しい思いをする人が出ないように、具体的に動かなければ」と始めたのが、現在も続いている防災まっぷ作成事業でした。

実際のまっぷ作成から

震災の翌年に防災まっぷ作成に取り組んだある地区では、発災時、区長が1人で大所帯の地区を6時間かけて安否確認をしたそうです。「このままではいけない」という思いからすぐに取り組みを始め、今では他の地区の防災まっぷ作成時にアドバイザーとして活躍しています。

また、防災まっぷを作成した地区では、防災まっぷをもとに毎年避難訓練を行っており、今では「訓練の度にスムーズに住民が動けるようになった、住民の意識が変わった」という声や、「東日本大震災時、安否確認がしやすかった」との声が住民から寄せられています。

防災まっぷづくりを通して、実際に

地域をみんなで歩いて、「初めて知る危険箇所」に気が付いたりしました。そして、作成を通じ、地域住民の顔、名前、体の不自由さ、お互いの生活など、地域や人を知るこ

とが出来ているとのこと。お互いを知り、地域を知っていることが、いざという時の「力」になるのです。



▲実際に地域を歩き、危険箇所などを確認します。

みんなでつながる地域づくり

「防災まっぷづくりを通して、多くの住民同士にコミュニケーションを図ってほしい。地域住民がつながり、向こう3軒両隣の精神が甦るように、地域住民とともにこれからも地域づくりに取り組んでいきたい」と話すのは早坂忠信 地域福祉課長。令和元年10月末現在では、255ある地区のうち、160地区がまっぷ作成に取り組みました。まだ作成していない地区には社協職員が声を掛け、作成から時間が経過した地区には見直しのためのフォローアップの支援をしています。

平時のつながりと日常の活動の大切

さを伝え続け、これからも住民とともに走り続ける栗原市社協の取り組みに期待しています。

(宮城県社協取材)



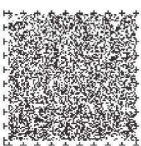
▲地域を歩いて確認したこと、みんなの情報をマップに記します。

栗原市社会福祉協議会

人口 / 67,446人  
(令和元年8月末日現在)  
栗原市社会福祉協議会  
社協職員数 / 271人



〒987-2252  
栗原市築館薬師 3-6-2  
築館高齢者福祉センター内 (本所)





## “向こう三軒両隣”

### 気軽な関係を築いていこう

#### ～住民主体の見守り活動～



▲「お変わりありませんか？」  
玄関先のふれあいが生まれます

山元町 つばめの杜西区  
地域支援ネットワーク ときわ会

#### ときわ会見守り隊がゆく！

爽やかな秋晴れの朝、つばめの杜西区集会所に地域の方たちが集まってきました。「地域支援ネットワークときわ会」の12名の皆さんです。東日本大震災の後に新しくできたこの地区には、災害公営住宅を中心に約270世帯の方たちが住んでいます。65歳以上の方がいる世帯は約1000世帯。その8割が一人暮らしです。同じ地区に住む見守り対象の方たちを訪問するため活動を開始し、2年が経過しました。月一回の見守り活動のこの日も、いつものように2、3人のグループを組み、訪問についての打ち合わせからスタートしました。「○○さんの体調はどうだろう。気遣って訪問しよう。」「○○さんは昨日見かけたよ。声がけしたら元気そうだった。」「○○さんは忘れっぽいんだ。こまめに声がけしないとね。」これから訪問する方たちの様子を話し合い、お互いの気づきを確認し合っただけで活動に出発します。

#### どんな人にも顔を見て声がけ

「洗濯物が干してあるわね。」と訪問先玄関のインターホンを押します。応答がなく庭へまわり、リビングへ声がけをすると、中からは元気な声



れから病院へ行くところ。」と住民の方が玄関先に出てきました。足腰が弱いその方へかけた言葉は「草むしり、たいへんだったら声かけてね。」

普段の見守り活動からは、訪問先のお宅に訪れたヘルパーさんや自転車で通りがかった近所の方、訪問先のお隣さんなど、見守りの対象となる方だけではなく、日頃から同じ地区で暮らす住民全体での関わりの大切さを見ることが出来ます。

見守り隊の方は話します。「同じ地区に住む人はみんな仲間。顔を合わせると必ず声がけをし、買い物で会っても必ず話しかけています。めんどくさがっちゃうだめよ。」「待っていてくれる人もいるし、それが楽しみです。」見守り活動がきっかけとなって、どんな人も日常的に顔を見て話し、まわりの様子を気にかける人と人との繋がりが自然に生まれています。

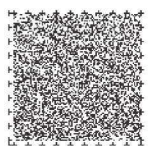
#### 地域のことは自分たちで取組もう

訪問を終えて集会所へ戻ってくると、それぞれが得た情報を全員で共有します。地域で対応しにくいケースについては、必要な関係機関へつなぐことも忘れません。

「訪問されることに消極的な住民の方もいます。担当者を変えるなど工夫も必要です。相性もありますね。見守り活動は積み重ねが大事。地道にコツコツです。」区長の坂根守さんは話します。「買い物に一人で来られない人はどうしているだろう？ イベントに行きたくても行かない人がいるのではないかと、同じ地域に住む者として気になります。どんな人も誰かと繋がっていることが大切。見守り活動や地区の行事をとおして、向こう三軒両隣の気軽な関係性を取り戻したいと思い、誰に言われるでもなく自分たちで取組んでいます。何ということはないのですよ。」



ときわ会では、これからも住民同士が気軽に交わることのできる関係性をめざして、地道な見守り活動を継続していきます。  
(宮城県社協取材)





9月11日第4回「いきいきSUNクラブ文化祭」

今回で4回目を向かえた「いきいきSUNクラブ文化祭」ですが、前日までの猛暑から一転して雨まじりの蒸し暑い一日となりました。前回同様に展示部門とステージ発表の2部門で開催されました。

開場の「仙台福祉プラザ」の展示ギャラリーとふれあいホールでは、前日から作品の搬入・展示やリハーサルが行われ、翌日の本番に向けて入念に準備をしました。

展示部門には5つのサークルと個人の作品を合わせ約480点展示されました。これまでは各自の作品を単純に並べていましたが、今回はテーマを明確にし、それに沿って全体が構成されています。どの作品も日頃の創作や練習の成果が遺憾なく発揮されており、個々の作品の出来栄えはもちろん、テーマに沿った構成にも賞賛の声が多数聞かれました。

また、ステージ発表では7つのサークルが参加されました。毎回友情出演されているSendai Sweet Jazz Unitのジャズ演奏を最初に、それぞれのサークルのパフォーマンスが繰り広げられ、演技が終わることに惜しめない拍手が送られていました。

さすがに4回目ともなると参加者の皆さんも手馴れたもので、作品の展示やリハーサルもてきぱきと行われていました。一方、参加者も年々増えており、今回は展示品出展者・ステージ参加者・見学者

併せて197名の方が参加されました。

【参加サークル】

☆展示部門：絵手紙教室、手づくり友の会、トールペイントサークル、花あそびいけばな遊墨アート

☆ステージ：下学塾、歌謡舞踊教室「若月会」、ストレッチフラサークル、太極拳、手品教室  
※Sendai Sweet Jazz Unit (友情出演)

【お問い合わせ先】

宮城県社会福祉協議会  
いきがい健康課 SUNクラブ担当  
電話022-223-1171



こんなことやっています! ここでは、宮城県社協の事業をご紹介します

特別養護老人ホーム和風園

介護の必要な高齢者で、家庭における介護が困難な方が入居する施設です。食事や入浴などの介護サービスや機能訓練、看護などのサービスを提供し、可能な限り自立した日常生活を営むことができるように支援しています。



▲和風園



▲定義山へのドライブ

季節ごとに桜まつり（お花見会）や夏祭り、長寿を祝う会、新春のつどいなどの催しを行っています。  
また、お刺身やデザートバイキングなどをおこない、生活に楽しみを持っていただけるように心がけています。



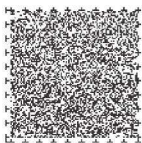
▲お刺身バイキング



▲節分

【お問い合わせ先】

特別養護老人ホーム和風園  
住所 黒川郡大和町小野字前沢1  
連絡先 022-346-2229





温かい真心をありがとうございます

下記の方々から、本会に寄附金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。  
(令和元年10月28日現在)

令和元年 9月 5日	株式会社ブリッジさまより社会福祉事業のために	25,000円
令和元年 9月10日	七十七銀行八幡町支店チャリティークラシックコンサート参加者一同さまより法人のために	
令和元年10月 3日	株式会社ブリッジさまより 社会福祉事業のために	20,000円

令和元年度福祉施策に対する要望書を提出しました

本会では、宮城県内の福祉団体から要望を取りまとめ、令和元年10月16日に宮城県保健福祉部に対する要望書を提出しました。要望事項及び回答はホームページなどで報告します。

宮城いきいき学園 令和2年4月入学生募集!

生きがいと健康づくりのための必要な知識を身につける学びの場です。

対 象 県内居住の60歳以上の方

場 所 ①仙南校 ②大崎校 ③石巻校 ④気仙沼・本吉校 ⑤登米・栗原校

※通学可能であれば、どの学校に申し込んでも結構です。

募集人員 各校40人

学 習 日 年間21日(2学年制)

入学金・受講料等 入学金：5,000円 受講料：20,000円(年間)

募集期間 令和元年12月1日から令和2年2月29日まで

申 込 書 各市町村の高齢者福祉担当課、生涯学習担当課、社会福祉協議会、および本会ホームページから  
も入手できます。



【申し込み・お問い合わせはこちら】

宮城県社会福祉協議会 いきがい健康課  
〒980-0011

仙台市青葉区上杉1-2-3

電話番号 022(225)8477

FAX番号 022(223)1151



宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

宮城県地域福祉総合補償制度をご利用下さい

ポイント1

社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。

ポイント2

地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。

ポイント3

団体制度のため、有利な団体割引が適用されます。(一部適用外)

ご不明の点は  
お問合せください!

お問合せ 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会  
三井住友海上火災保険株式会社  
株式会社オンワード・マエノ

TEL022-225-8476  
TEL022-221-3171  
TEL022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

この印刷物は、植物性油インキを使用し、環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧になれます。また、ご意見、ご感想、とりあげて欲しいテーマなどをお寄せください。表紙の作品も募集しています。

